



宝木地区公民館だより

10月21・22日（土・日）『宝木地区文化祭』が開催されました。

宝木地区文化祭

文化祭実行委員長

水谷 広行

宝木地区文化祭は、大人から子どもまで日頃学習している成果の発表の場であり、地域の人とのコミュニケーションの場になっています。

第37回宝木地区文化祭が10月21日、22日の2日間の日程で、宝木地区公民館、勤労者体育館を会場に行われました。

当日は台風によるあいにくの雨でしたが、前年の文化祭は鳥取中部地震により開催出来ず、2年連続の中止は避けようと、雨の中実施されました。

作品展示、芸能発表、講演会など、各種イベント、抽選会など、悪天候で足元の悪い中、いずれも沢山の方にご来場いただきました。各委員、各種団体の方々をはじめ沢山の方の協力のもと、大盛況のうちに無事終了することが出来ました。本当にありがとうございました。

文化祭作品展

ほっぎひつじかい

私たちのサークルは、未経験素人が右往左往しながら、13年経ちました。研修と称しての県内外への旅は技術・知識を磨きつつも、仲間意識を高め互いを尊重し、補い合えるグループとなりました。

今では、雑誌や手芸店で情報を得、見様見真似で作品作りを楽しんでいます。何を製作するかは、文化祭が起点です。今年度は、ニュージラント直輸入の毛を紡ぎ、糸にした「棒針編みベスト」、お気に入りデザインの図案を入手した「かぎ針編みのベスト」、ほんぼん手芸の「アニマル数匹」4本綜統の「模様編みスカーフ」等でした。

文化祭が済むと、ホッとしつつも「来年は？」と新たな目標を探り、慌てず騒がず、一年を掛けゆっくりのスキルアップに励んでいます。

10月11日

環境視察で

食育の大切さを再確認

中本 佳子

研修先は琴浦町の大成農場と大山乳業農業協同組合工場。いい肉を食べたい!!肉や牛乳は毎日のように食べているが、その生育や流通、食卓に上がるまで詳細を知りたいと思いました。

当日は、好天に恵まれ大成農場へ。大山のふもと静かできれいな空気と水、自然豊かな場所です。ストレスなく牛は飼育され、出荷するまでの説明を受けました。帽子・マスク・防護服など病菌を入れない装いで牛舎に入らせていただきました。

生後7ヶ月の子牛を北海道から買い付け3日間かけて運び、安全・安心・美味を目指し、とうもろこし・さつまいもなど含む飼料・水を与え、寝床は県産間伐材クズ粉を敷き清潔な環境のもと、毎日一頭一頭健康チェックし病気予防に努め、



15ヶ月愛情をこめて飼育し、年間3千頭が出荷されています。JAを

通して全国へ販売、新鮮美味な東伯牛は生協コープでも購入できる。

視察後の昼食は、牛肉と野菜のヘルシー料理をいただき、コーヒータムでは公民館長さんをおもてなしと気あいあい。

午後は大山乳業へ移動。「健康な乳牛から安全管理のもと美味しい牛乳と乳製品を作る」をモットーにすべて機械化。生乳は早目の殺菌、洗瓶は厳重で



新鮮さを追及。私の東京の娘も「スーパーマーケットで求石井」で求

め愛飲。これからも、地元の優秀な工場から生まれる東伯牛肉、新鮮な白バラ牛乳を感謝していただきたい。

1月13日

朝鮮漬け教室に参加して

吉船 喜子

宝木地区公民館で「白菜の朝鮮漬け」の講習会があり参加しました。というのも家族がキムチが大好きなので家で作ってみたいという思いがあったのです。



まず本漬けの前に塩水につけて2日間置いて、その後グループに分かれて本漬けをしました。白菜の他、大根、ニンジン、ニンニク、シヨウガ、唐辛子、さきいか、昆布等、具材を切って白菜の間に

まんべんなく詰めていくのですが、「野菜の切り方はこれくらいでいいだろうか?」「これくらいの細さでいいかな?」等皆でワイワイ、ガヤガヤおしゃべりをしながらの講習会、ほんとうに楽しい時間でした。

数日後、体験談を交えながら食べ、家族との会話もはずみましました。

今頃はスーパーに行けば何でも揃っている便利な世の中ですが、自分で作ったものは特別です。

今後は、この体験をもとに、自分だけのオリジナルの漬物を作っていけたらと思います。

11月27日

文化教室に参加して

地原 輝雄

盆栽いじりか晴れ間の畑仕事くらいが私の生活ですが、一人居の時間が多くなると世間との会話に飢えている自分に気がつかなくなるものです。そんな時、仲間から公民館主催の

文化教室に誘われ参加しました。

午前8時すぎ出発、参加者16名、傘をさす心配のないまあまあの天気でした。9時半頃余部道の駅でトイレ休憩、その辺りから静かだった車内も笑い声など賑やかくなりました。通過していく土地の風景や歴史などガイド役の河根さんの説明を聞きながら車窓を眺め指を指してうなずいたり楽しそうでした。



豊岡では特別天然記念物「このとり」の姿が見られ、野生復帰に取り組んでおられる地域の方々の努力や苦勞を目のあたりにし、感動しながら目的地玄武洞に着きました。

列車など遠くで眺めた玄武洞とは随分とちがい、規則正しく柱状に割れた不思議な美し

い姿、更に美しさを加えてくれた周辺木々の紅葉が一層秋を満喫させてくれました。

城崎で昼食を終え、香美町立シオパークと海の文化館を見学、シオパークについての認識、知識を深めることができました。



応挙寺で有名な大乗寺では、円山応挙やその弟子達の筆画を見学しました。

視察はすべて感動することばかり、又仲間入りさせて頂いて楽しい研修ができた事に感謝しています。

本職ガイドとちがい「とつとつ」とした温かみのある又時折のユーモアを交えて説明し皆を楽しませて下さった河根さんのガイド、そして女性ドライバーの方の運転もめずらしくこれも旅の感銘の一つでした。

じげ自慢

奥沢見の神社

谷口 政則

奥沢見は、宝木地区の東の山間にたたずむ、小さな集落です。21世帯で農業を助け合い行っている綺麗な所です。

この小さな集落には、二つの神社が奉られています。一つは村の氏神である宮崎神社で、村の守り神です。もう一つは、奥沢見・水尻・酒津・



宝木の氏神である板井神社。板井神社は2つの鳥居があり、二つ目の鳥居を抜けると、正面に2体の狛犬が迎えてくれます。めずらしい狛犬のようで、各地より見物に來られます。狛犬を



抜けると、右側に拝殿があります。拝殿前には、扇形の拝石があり、拜殿の作

りにも虹梁上に錨も奉納されています。農業のみならず、漁業の守り神です。境内は、杉、イチヨウなど神木が茂り静かで緑豊かな神社です。このような2つの神社があることを後世に伝え守っていきたいと思います。



☆宝木ルミナリエ☆

12月17日(日)、『宝木ルミナリエ』と題し、宝木地区公民館でイルミネーションの飾り付け作業を行いました。

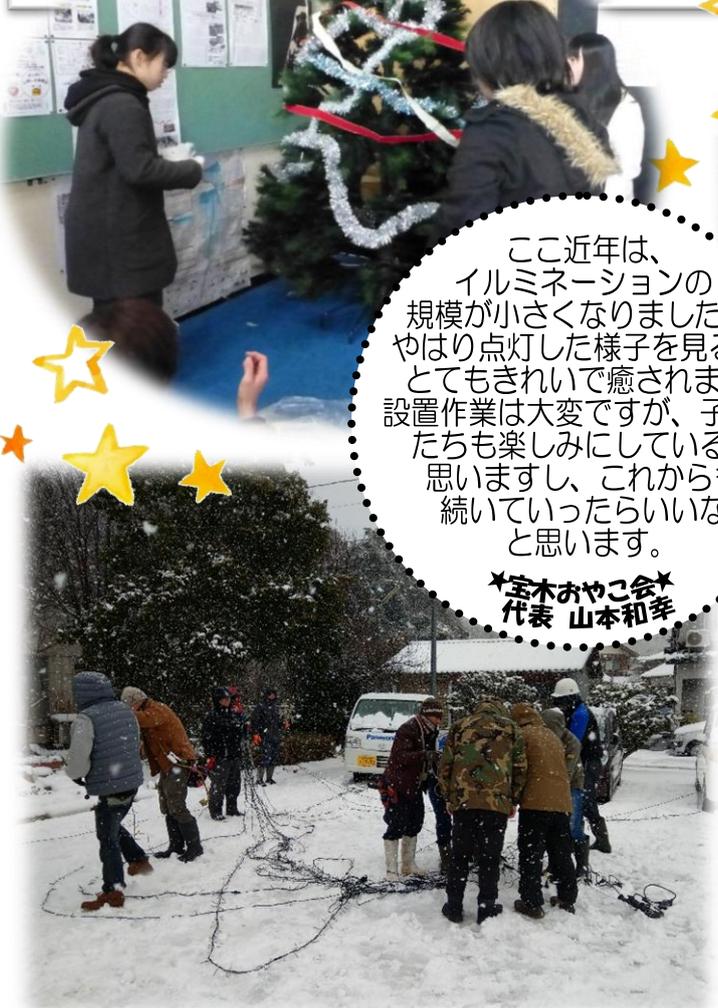
“みんなが集う公民館に安らぎと癒しを提供しよう！”と始まった宝木ルミナリエ。今回で13年目です。子どもたちは大人と一緒に、大きなクリスマスツリーの飾り付けのお手伝いをしてくれました。当日、外では悪天候で雪の降る中での作業でしたが、宝木おやこ会・宝木商店会の方々のご協力により、公民館に温かな明かりがともりました。

最近、イルミネーションを
するところが少なく
なってきた中で、これほど
大規模なイルミネーションを、
作業が辛い中して
すこしい、光った時は、
きれいだなと
感じます。
★6年 山本魁人★



そとは、さむかったけど
こころは、あたたかくなりました。
ひかかってきれいだったです。
こんどいくときは、おともたちと
いっしょに見にいきたいです。
らい年もイルミネーションが
あったらうれしいです。
★1年 鈴木陸★

ここ近年は、
イルミネーションの
規模が小さくなりましたが、
やはり点灯した様子を見ると、
とてもきれいで癒されます。
設置作業は大変ですが、子ども
たちも楽しみにしていると
思いますし、これからも
続いていったらいいな
と思います。
★宝木おやこ会★
代表 山本和幸



編集後記

下期公民館だよりをお届けします。各事業に参加された方々の思いが伝わってきます。皆様の参加をお待ちしています。

これからも、より読みやすく、親しまれる公民館だよりを作っていきます。原稿を寄せていただいた皆様、ご協力ありがとうございました。